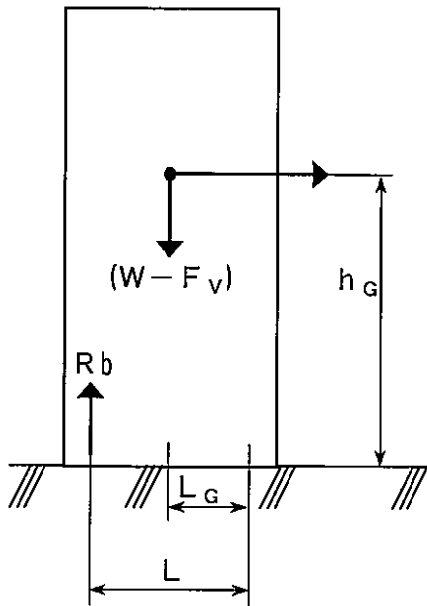


移動式粉末消火設備 (YDA-75CAJ II)
アンカーボルト耐震計算書



- G : 機器重心位置
- W : 機器質量
- R_b : アンカーボルト1本あたりの引抜力
- n_t : 引張を受ける片側のアンカーボルト総本数
- h_G : 据付面より機器重心までの高さ
- L : 短辺方向のアンカーボルトスパン
- L_G : ボルト中心から機器重心までの距離
- F_H : 設計用水平地震力
- F_V : 設計用鉛直地震力

YDA-75CAJ II
正面図 (短辺方向)

1. 地震入力

設計用水平地震力の作用点は重心とする。

地域係数 Z : 1.0

設計用標準震度 K_S : 1.0 とする (建築設備耐震設計・施工指針2005年による)

$$F_H = K_H \cdot W$$

$$K_H = Z \cdot K_S$$

$$F_V = K_V \cdot W$$

$$K_V = 1/2 K_H$$

K_H : 設計用水平震度 $Z \cdot K_S = 1.0$

W : 機器質量 80 kg = 0.785 kN

F_V : 設計用鉛直地震力

K_V : 設計用鉛直震度

$$F_H = K_H \cdot W = 1.0 \times 0.785 = 0.785$$

$$F_V = K_V \cdot W = 1/2 \cdot K_H \cdot W = 1/2 \times 1.0 \times 0.785 = 0.392$$

∴ 設計用鉛直地震力 (F_H) = 0.785 kN

設計用鉛直地震力 (F_V) = 0.392 kN

2. アンカーボルトの引抜力

W : 80 kg = 0.785 kN
L : 24 cm
h_G : 64.25 cm
L_G : 12 cm
n : 4 本
n_t : 2 本
F_H : 0.785 kN
F_V : 0.392 kN

$$R_b = \frac{F_H \cdot h_G - (W - F_V) L_G}{L \cdot n_t}$$

$$R_b = \frac{0.785 \times 64.25 - (0.785 - 0.392) \times 12}{24 \times 2} = 0.952 \text{ kN}$$

∴ アンカーボルト1本の引抜力は 0.952 kN

3. アンカーボルトのせん断力

Q : アンカーボルト1本に作用するせん断力

$$Q = \frac{F_H}{n}$$

$$Q = \frac{0.785}{4} = 0.196 \text{ kN}$$

∴ アンカーボルト1本に作用するせん断力は 0.196 kN

∴ アンカーボルトの引抜力、せん断力よりアンカーボルトのサイズは以下とする。

- ・ あと施工接着系アンカー : M10以上
- ・ あと施工金属拡張アンカー : M8以上

(図1～4及び表1～2を参照のこと。施工は図1～2による。)

4. アンカーボルトの選定 (床・基礎据付)

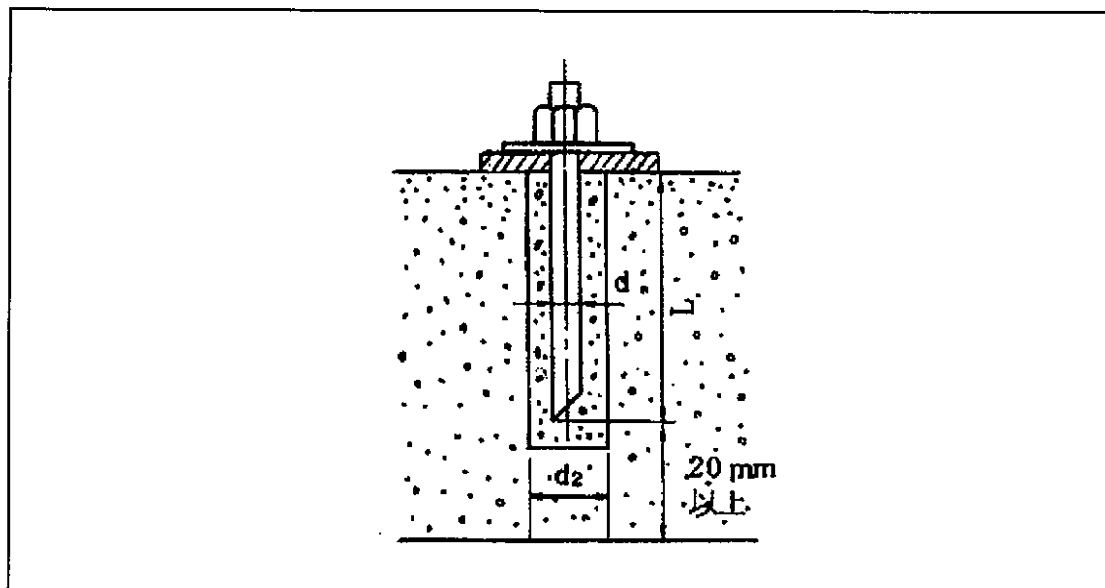


図1. あと施工接着系アンカーボルト

表1. 短期許容引抜荷重 (kN)

ボルト径 d (呼称)	コンクリート厚さ (mm)				埋込長さ L (mm)	穿孔径 d ₂ (mm)
	120	150	180	200		
M10	7.60	7.60	7.60	7.60	80	13.5
M12	9.20	9.20	9.20	9.20	90	14.5
ボルトの埋込長さ (L)の限度 (mm)	100	130	160	180	/	/

- 注 1. 上図において、上表の埋込長さ及び穿孔径の接着系アンカーボルトが埋込まれたときの短期許容引抜荷重である。
2. コンクリートの設計基準強度 F_c は、 1.8 kN/cm^2 (1.8 N/mm^2) としている。
3. 各寸法が上図と異なる時、あるいはコンクリートの設計基準強度が異なる時などは、別途堅固な基礎の計算によるものとする。ただし、床スラブ上面に設けられるアンカーボルトは1本当たり、 9.20 kN を越す引抜荷重は負担できないものとする。
4. $L \geq 6d$ とすることが望ましく、上表の一印部分は、使用しないことが望ましい。
5. 第一種、第二種軽量コンクリートが使用される場合は、1割程度裕度ある選定を行うこと。

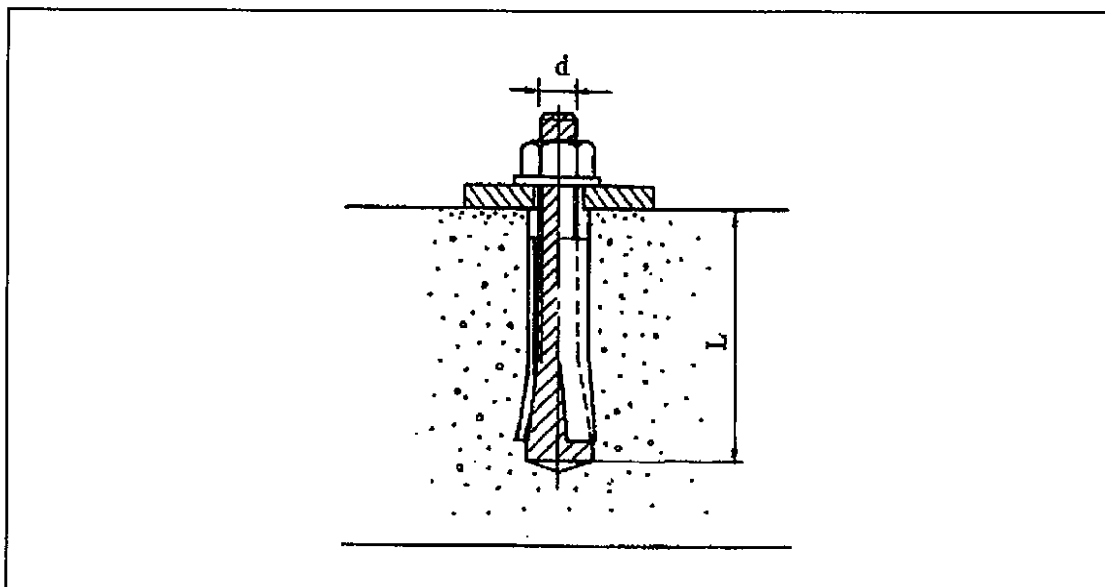


図2. あと施工金属拡張アンカーボルト

表2. 短期許容引抜荷重 (kN)

ボルト径 d (呼称)	コンクリート厚さ (mm)				埋込長さ L (mm)
	120	150	180	200	
M 8	3.00	3.00	3.00	3.00	40
M 1 0	3.80	3.80	3.80	3.80	45
M 1 2	6.70	6.70	6.70	6.70	60
ボルトの埋込長さ (L)の限度 (mm)	100以下	120以下	160以下	180	

- 注 1. 上図において、上表の埋込長さのアンカーボルトが埋込まれたときの短期許容引抜荷重である。
2. コンクリートの設計基準強度 F_c は、 1.8 kN/cm^2 (1.8 N/mm^2) としている。
3. 各寸法が上図と異なる時、あるいはコンクリートの設計基準強度が異なる時などは、別途堅固な基礎の計算によるものとする。ただし、床スラブ上面に設けられるアンカーボルトは1本あたり、 6.70 kN を越す引抜荷重は負担できないものとする。
4. 埋込長さが右欄以下のものは使用しないことが望ましい。
5. 第一種、第二種軽量コンクリートが使用される場合は、1割程度裕度ある選定を行うこと。

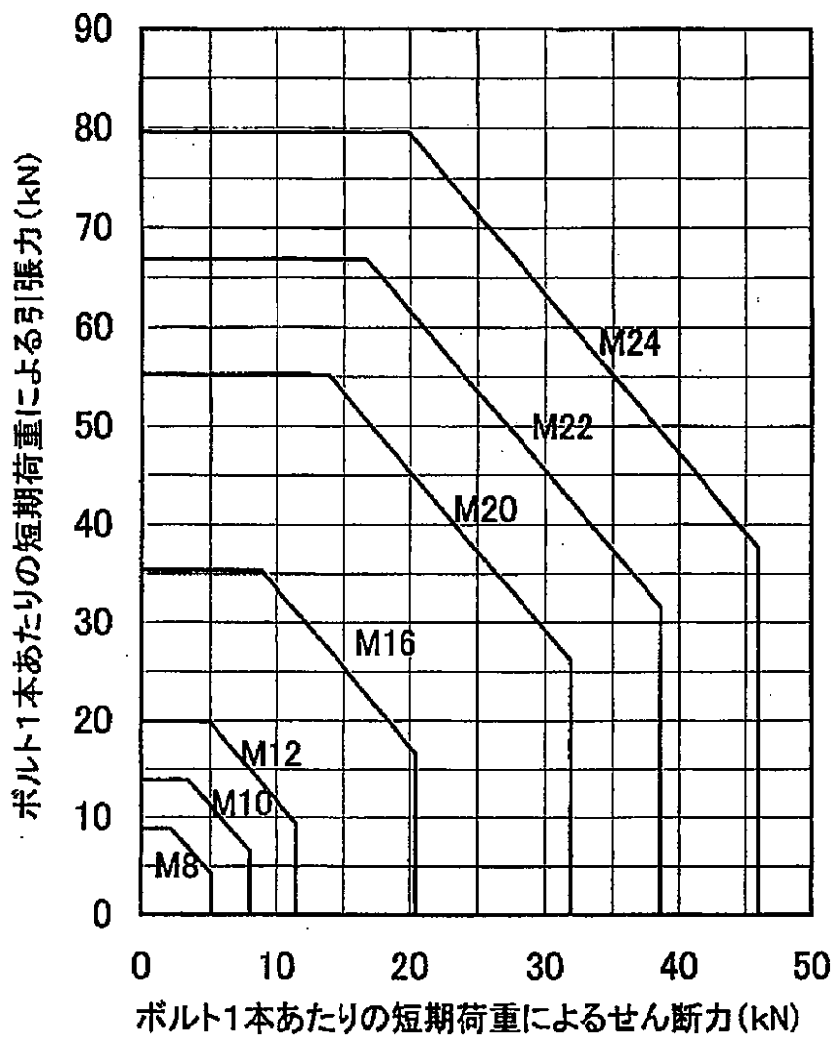


図3. ボルト (SS400) 許容応力度図

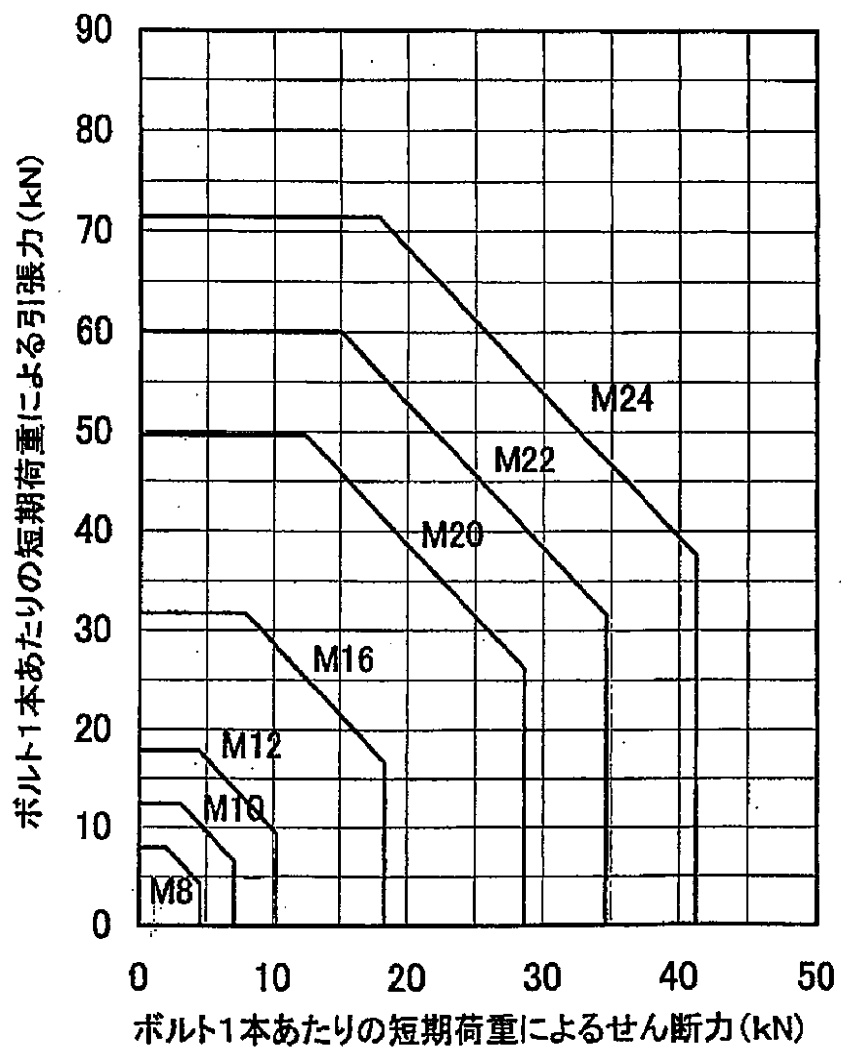


図4. ステンレスボルト (A2-50) 許容応力度図